



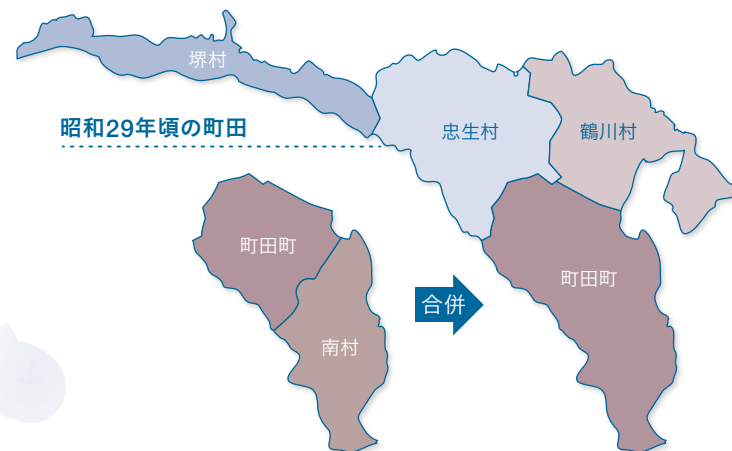
1. 町田市役所開庁式にのぞむ旧町村長たち。右端が堺村長の諏訪正賢氏、右から3人目が青山藤吉郎氏 2. 町田市自由民権資料館所蔵の合併の議事録や東京都からの勧告書 3. 市制施行祝賀のちょうちん行列

01 町田市の船出 村から町、そして市へ



江戸期には25村に分かれていた町田は、幾度も行政区画変更を繰り返して、明治22（1889）年4月に町田村、鶴川村、忠生村、南村、堺村の5村となっていた。大正2年に町田村は町田町となるが、5町村は独立した自治を営みながら、古くからの交流を深め、次第に行政上の連携を図るようになっていた。

戦後の混乱も落ち着いて昭和28年に「町村合併促進法」が制定され、全国的に合併への機運が高まると、昭和29年4月、町田町と南村が東京都初の合併に成功、青山藤吉郎町田町長は残りの3村に合併促進の申し入れを行った。しかし、3村は村への帰属意識が非常に強く、合併には至らなかった。



合併の話が最初に持ち上がったのは昭和13年。しかし、この時は時期尚早ということで話は立ち消え、続いて昭和16年に平本栄一町田町長の提案で話が進められた。昭和31年、国による5年の時限立法「新市町村建設促進法」や東京都知事による勧告が行われ、鶴川村と忠生村はようやく合意に至る。しかし、堺村は、合併に賛成の小山地区、八王子と合併したい相模地区と意見が二分。最終的には村議会で採決し、6対5のわずかな差で町田町への合併が決定された。



1. 昭和33年6月、国鉄原町駅ロータリーの特設会場で行われた消防音楽隊の演奏に集まった市民たち 2. 3. 市制施行記念パレードで原町田は大いに盛り上がった

「町田市」以外の 新市名の候補は？

合併した市の名前が「町田市」にすんなり決まった訳ではありませんでした。他の案としては「西東京市」「南多摩市」「堺市」「都南市」などがあったそうです。結局、住民の生活に直結する中心的な形態を保つ町こそがふさわしいという合意のもとに、「町田市」となりました。



町田 60年

時を重ねて、今に至る
町田市の歩み。

町田市誕生までの様々なドラマや
高度成長期における人口増大、町の成熟。
60歳になった「町田市」の軌跡をたどってみましょう。



町田市原町田